1524号(夕焼け通信 創刊1993.4.23)　2026.2.2
〒690-0871 島根県松江市東奥谷町386-7　gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/　編集 宮森健次

老い老いに

木幡智恵美

67

「新しい年が始まった。ここ十年近く、私は深い淵に沈んでいた。二十代の頃、私を取り巻く様々な要因から崖っぷちに立たされ右往左往する幾年かを過ごしたが、外圧に対しては抵抗という力が沸いた。しかし、自分の内から崩れるものには手の施しようもない。動こうとする気力もなく、誰かに会うことすら億劫で、外界と触れることのない深い水底に沈んでいた。」二〇〇七年一月八日発行の夕焼け通信六四四号「どうなってる脳？」始まりの文章だ。この回では「壊れた脳を生きる」を書いた山田規畝子さんのことを取り上げた。山田さんは度々脳出血に見舞われ、三度目には左半側空間無視の症状まで出ている。それでもめげずに前に進む山田さんの姿勢に力をもらい、自分も前を向いていきたいと結んでいる。実は、この頃私はもう辞職を決意し、管理職にも伝えている。最後の三ヵ月を悔いなく勤め上げようと決意した年頭だった。

さて、二〇〇七年はどんな年だったのだろう。この年の十大ニュースは次の通り。

一、安倍首相突然の辞任、福田内閣発足　二、参院選で自民、歴史的敗北　三、年金記録未統合五千万件が判明　四、防衛汚職で守屋前次官と妻逮捕　五、各地で食品偽装発覚　六、中越沖地震で死者十一名　七、「大連立」頓挫、小沢民主代表が辞任　八、海自、インド洋から撤収　九、国民投票法が成立　十、日本列島七十四年ぶり猛暑

やけに政治関連が多い。その年突然の辞任をした安部元首相は二〇二二年七月八日、旧統一教会に恨みを持つ信者二世の銃弾に倒れた。事件の背景にあった二世信者問題、政治家との繋がり等がクローズアップされ、教会には解散命令が出された。先日、山上被告には無期懲役が言い渡されたが、この裁判結果を皆様々な思いで受け止めただろう。

今も政治は混迷を極めている。大義なく、国民の納得も得ないまま、急な衆議院解散。各政党は確固とした政治信条が本当にあるのか、くっついたり離れたりを繰り返している。物価高騰で苦しむ国民の目の前に消費税減税などのニンジンをぶら下げ、その実自党の数確保に躍起になっている。世界情勢が落ち着かない中、足元も先日の地震のように揺らいでいる感じだ。

座付の雑記　31

宮森健次

公民館まわり 2

退職時には、今の座付作者生活などまったく想定していなかった。学校勤めはしないと決めていたが、かといって他にやりたいこともなかった。しばらくぶらぶらして、それが耐え難くなったら何をするか決めようと思っていた。泰然とはほど遠く、そんな半端な態度では早晩鬱屈し、イライラを募らせキレまくる昭和オヤジの一丁あがりになりはしまいかと危惧も抱いたものである。

退職後をどう過ごすかは、先達の指南書が数多出ており、退職を意識し始めてから、図書館でそれらしきタイトルが見えたら片っ端から借りて読んだ。上から目線で言われたら誰も買わないだろうから、どの本もとても親切で丁寧だった。いかに孤独に陥らず、無力感に蝕まれないようにするか、さまざまな事例やデータ、学説、で具体的に説かれていた。

よく目にしたのが、自分がしてきたこと、またやってみたいことのリストを作ってみよ、という勧めである。実現に至らなかったことも含めて、かつてしてきたことやしたいと思ったことがこれからの土台になるから、どんな些細なことも挙げてみろ、と。なるほど、ぼんやりとしたところから思いつくのは難しいだろうから、リストにして見えるようにすれば役に立つかもしれない。そう考えて書き出してみたら、やってみたいことはいくらでも浮かんできた。旅、習い事、明るいうちから酒、などなど。具体的に事細かく思い描いていると、退職する日を文字通り指折り数えずにはいられなくなった。

もう少しで退職して丸五年になる。座付作者の職を得たこともあって、あれほどワクワクしてこしらえたやりたいことリストもいつの間にかどこかに消えてしまい、何を書いたかもあらかた忘れてしまった。山や街道や、美術館、演劇など焦がれるように思っていたはずが、今の我が身を振り返るに、そもそも出かけることが面倒になってきているではないか。何時間も運転したり、電車を乗り継いだりが億劫になってくるなんて想定していなかった。

公民館や集会所めぐりの意義がここでまた浮き上がってくる。きっと面倒くさがらずに出かけられる範囲は、これからじわりじわりと収縮していくことだろう。いずれは県民会館に行くのも渋りそうだ。しかし、生き生きしたものを、面白いものを、見たい触れたいという欲望はそう簡単に減退はしまい。すぐそこの集会所でやってくれるんなら行くんだけどねえ、それがきっとぼくの行末だし、たぶん御同類は少なからずおられるだろう。こども落語はそんな需要に応えているのかもしれない。

30代フリーター　債券安、円安を引き起こす高市政権の「積極財政」に経済界からも批判が出ている。楽天グループ会長の三木谷浩史は「高市政権はよい政策もあるとは思うけど、今の状況を鑑みるとこの超積極財政はマクロ経済的に極めて危険」と指摘している。

年金生活者　それでも高市政権が今の路線を変えることはないだろう。どんなに不合理に見えようとも、それは新たな段階に向かおうとしている資本主義の要請だからだ。

第3次産業を牽引車とする現在のポスト産業資本主義は、利潤の源泉となるイノベーションを、グローバル化を原動力に繰り返してきた。モノ、カネ、ヒトの国境を越えた移動は、世界経済を「買い手に極楽、売り手に地獄」（長谷川慶太郎）のデフレ基調にし、襲いかかる価格破壊に「売り手」はイノベーションで応戦してきた。

だが、新型コロナウイルスの流行とロシアのウクライナ侵略はそれに急ブレーキをかけた。国家は自らを閉じ始め、グローバル化は減速し、世界経済はデフレからインフレに転換した。それはこれまでとは異なる利潤の源泉を資本主義が求め始めたことを意味する。それを獲得するには新しいインフラの構築が必須となる。

30代　新しいインフラとは具体的にどんなものだ。

年金　AIや量子コンピューター、バイオなど最先端技術で構成されることになるのは確実だ。その研究開発には膨大な費用と手間がかかり、民間企業だけでは不可能なので、国家の手を借りなければならない。ポスト産業資本主義のインフラとなったインターネットがほとんど民間の手で発展してきたのとは対照的と言っていい。

高市政権の「積極財政」を長期的視点から位置づけるなら、新しいインフラを構築するための費用調達ということになる。「危機管理投資」の名のもとに、AIをはじめ、半導体、量子コンピューター、核融合、バイオ、航空・宇宙などの先端技術の開発に税金を投じようとしている。その結果、財政赤字がいっそう拡大しても、またそのせいで政権が代わったとしても、それは止まることはないだろう。

30代　その行き着く先は国家財政の破綻だ。

年金　かつて西欧の絶対王政国家は軍事力を使って航路開拓や植民地獲得を進め、商業資本主義のインフラを築きあげた。そうした「重商主義」という名の「積極財政」がやがて「財政破綻」を招いた歴史がいま形を変えて反復されようとしている。グローバリゼーションにブレーキがかかり、推進力を失い始めているポスト産業資本主義に取って代わる次の段階の資本主義として、新しいバージョンの商業資本主義が勃興しつつある。

絶対王政国家の重商主義政策は航路開拓と植民獲得を通じて世界市場を形成した。それは商業資本主義のインフラとなったばかりでなく、次の産業資本主義の発展のインフラともなった。だが、そのための投資に要した膨大な

費用はやがて絶対王政国家の財政破綻を招く。航路開拓や植民地獲得には常備軍の力が必須であり、その維持や戦争に巨額の費用を要したからだ。

30代　現在の国家もそれがわかっていて同じことを繰り返そうとしているのか。

年金　資本主義の更新は、国家にとって自らの存続がかかっており、それはいま軍備の増強と産業インフラの構築の一体化として進んでいる。軍事と産業、政治と経済、国家と市場という、別次元にあるものの結合が深まっている。

東西冷戦期までの軍事力が、兵器の量や火力といった、物理的な破壊力を中心としたものだったのに対し、現在のそれは、AI、衛星、サイバー技術といった、物理的な破壊力とは直接関係のない最先端技術に支えられたものになっている。それらはいずれも民間の産業インフラと重なっている。

ここには軍事力の増強が産業インフラの整備を促進し、産業インフラの整備が軍事力の増強を支えるという相互依存的な関係が成立している。

こうした軍産の一体化は、かつて西欧の絶対主義国家が進めた重商主義政策と相似形をなしている。国家による常備軍の強化、その力を使った航路の開拓と植民地の獲得は、当時の商業資本主義に必須のインフラである海上交通網と海外拠点を構築すると同時に、

ニュース日記　1001

中村　礼治

「積極財政」が意味するもの

それらが常備軍の展開力を拡大する基盤ともなった。

いま世界で起きている軍拡とインフラ投資の競争は、自国第一主義をイデオロギー的な支えにしている。軍産の一体化という、国家による市場への大規模な介入にはナショナリズムのあと押しが欠かせないからだ。そのナショナリズムに燃料を補給するのがポピュリズムであり、高市政権の「積極財政」が軍備の増強とともに、財源不明の消費減税などバラマキを含んでいるのは必然と言える。

30代　ジイさんは、それを商業資本主義の形を変えた反復だというが、それが何世紀も前の貧困と戦争の時代に戻ることを意味するなら、それに耐えられる人間がどれだけいるか。

年金　昔のような貧困と流血がそのままよみがえるわけではない。新バージョンの商業資本主義のインフラは、それまでに累積した資本主義の各段階のインフラを土台に構築されるからだ。